王であるキリスト——年間第34週
(A 年主日の福音を中心とする「霊的な読書」)

(一) 聖書朗読：マタイ 25：31-46

人の子は栄光に輝いて天使たちを皆従えて来る時、その栄光の座に着いて、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らを選び分ける。王は右側にいる正しい人たちに言う。『私の父に祝福された人たち、み国を受け継ぎなさい。お前たちは、飢える人に食べさせ、渴いている者に飲ませ、旅をしていた者に宿を貸し、裸の者に着せ、病気の時に見舞い、牢にいた者に訪ねてくれたからだ。私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。』しかし、左側にいる人たちは、このようにお世話をしなかったから、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命に与るのである。

(二) カテキズムの響き

(カトリック教会のカテキズムの番号、主に #1038-1039、1027-1029；

他に 544、679、1034-1035、1397、1403-1405、2447；YOUCAT #156、161、163)

世の贖い主、永遠の命の主である神の子キリストは、人間の行為と心とを最終的に裁く至上権を持っています。この裁きは御父が子に任せておられるのです。また、キリストはこの権利を十字架によって勝ち取られました。主キリストは羊飼いのように羊と山羊を分けて、正しくない人たちは永遠の罰を受け、正しく人たちは永遠の命に与るのです。最後の審判では、真理であるキリストを前にした時、一人ひとりが神とどのように関わったか明らかになります。ご自分をすべての貧しい人々の立場に置き、こうした人たちへの積極的な愛の行為を神の国に入るための条件となさいました。慈善のわざとは、困っている人々を助ける愛の行為です。教え、助言、慰め、励ますことなどは、ゆるし、耐え忍ぶことなどと同じように、精神的な慈善のわざです。飢えている人に食べさせ、宿のない人に宿を提供し、着る物を持たない人に衣服を与え、病人や受刑者を訪問し、死者を埋葬することなどは、身体的な慈善のわざです。

貧しい人への施しは、兄弟愛の証しの代表的なものの一つだけではなく、喜ばれる正義の実践であります。これも、エウカリスチアが貧しい人々との連帯を強めさせてくれるものです。しかし、生涯の終わりまで信じることも回心することも拒み続ければ、神との決別状態が永遠に続くということなのです。王であるキリストとともに世の限りなく統治することは、天上の栄光に包まれた神を観想することは、至福直観と呼ばれています。いつかその国で、いつまでもともにあなたの栄光に与り、喜びに満ちたされますように。

(三) カテキズムの学び (『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号)

#133, 207 王であるキリストは、栄光に満ちて帰って来られます。

最後の審判によって永遠の命は承認されます。

最後の祈り：

共同祈願の後、「賛美の賛歌」を唱えます(カトリック・カテキズム要約の付録Aの参考)